

# 令和5年度自己評価結果公表シート

上田女子短期大学附属幼稚園

## 1、本園の教育目標

「生き生きしている子ども」「健康な子ども」「心の豊かな子ども」を教育目標に掲げている。

## 2、本年度、重点的に取り組む目標

- ア. やまほいくの推進
- イ. 短大との連携
- ウ. インクルーシブ教育の実践

## 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
ア. やまほいくの推進	A	やまんばの森づくりプロジェクトで整備したエリアを新たな園児のあそび場として活用したことで、あそびの拡がりが見られた。また、自然環境を遊びや園生活へ主体的に取り入れようとする姿が多く見られた。保護者参加型のイベントについては、出席する顔ぶれが固定化してきているが、理解や関心を寄せる保護者は多いと感じている。
イ. 短大との連携	A	園児と学生が関わる活動を意識的に取り入れたことで、園児にとっての体験の場や範囲を拡げていくことができた。また、短大教員の専門性と連携し、園児や幼児教育への理解を深めるとともに、専門性を活かした活動実践に繋げていくことができた。
ウ. インクルーシブ教育の実践	B	すべての子どもたちにとって、園生活が楽しく安心したものになるよう、家庭や専門機関と連携した支援体制づくりに努めることができた。また、主体的に「ひと」や「もの」とかかわることができる環境の構成の仕方や、体制の在り方について教員の学びを深めていくことができた。今後も継続して研究実践していく。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

**A**

取り組むべき課題について全職員が共通理解し、主体的に取り組むことができた。また、それぞれが自己評価をし、新たな課題について見出し、今後の取り組みや本園の教育方針を明らかにすることができた。

## 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
ア.やまほいくの充実	ESD 教育を自然保育と編みあわせ、未来を担う人材育成のために幼稚園としてできる教育の方法について議論を深め、実践を体験できる研修プログラムに教員が積極的に参加し、保育実践の中に取り入れていく。また、やまほいくの実践を、各家庭や地域に発信していくことで、保護者や卒園児あるいは地域との連携をつくり、園児にとっての体験活動がより充実したものにする。
イ.短大との連携強化	短大が推進している「デザインの学び（自らの体験によって『コト』や『モノ』を創り出すという学び）」を幼稚園教諭が理解し、保育に取り入れたり自らも体験したりしていくことで、短大の特色とリンクした幼児教育を実践していく。また、短大教員との連携講座を園児保護者や地域へ公開し、短大の附属幼稚園としての特色を更に発信していく。
ウ.インクルーシブ教育の推進	令和5年度より研究実践している「保育環境を活かしたインクルーシブ教育」について、8月に石川県で行われる「令和6年度東海北陸地区私立幼稚園教育研究石川大会」において分科会発表を行う。本園の取り組みを発表することで、専門家の助言や現場の様々な意見を聞き、今後の研究や実践に活かす。また、具体的な事例を整理し、教員間での情報共有や考察を深める。

## 6. 学校関係者の評価

1月26日に行われた学校関係者評価委員会において、委員からは概ね良好な運営をされているという意見をいただくことができた。

### 3. 4の評価結果基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である